

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

R2年度の 成果測定指標	単位	R2年度の 目標値	R2年度の 実績値〔見込値〕
償還金回収コスト比率 (回収コスト／償還金収入 (繰上げ償還額除く))	%	4.29	〔4.73〕

未達成の 要因と分析	<p>目標が未達成の要因は、回収コストは縮減を図ることができたが、一方、償還金収入のうちの現年度収入の減少により計画値に達しなかったことによるものである。</p> <p>○現年度の償還金収入の減少について</p> <p>計画における償還金収入見込は、計画策定年度（平成28年度）の直近3ヶ年における貸付及び返還状況、生徒数の推移などを踏まえ算定したものであるが、その後の雇用情勢の改善など経済状況の好転による影響等から奨学金の利用者が減少し、貸付額が縮減したことに伴い現年度の償還金収入が計画に比して大きく減少した。</p>																	
	<p>■ 償還金回収コスト比率 (単位: 百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2年度 目標</th> <th>R2年度 見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>償還金回収コスト</td> <td>343</td> <td>336</td> </tr> <tr> <td>償還金収入</td> <td>8,000</td> <td>7,110</td> </tr> <tr> <td> 現年度収入</td> <td>7,054</td> <td>6,188</td> </tr> <tr> <td> 過年度収入</td> <td>946</td> <td>922</td> </tr> <tr> <td>償還金回収コスト比率</td> <td>4.29%</td> <td>4.73%</td> </tr> </tbody> </table>		R2年度 目標	R2年度 見込	償還金回収コスト	343	336	償還金収入	8,000	7,110	現年度収入	7,054	6,188	過年度収入	946	922	償還金回収コスト比率	4.29%
	R2年度 目標	R2年度 見込																
償還金回収コスト	343	336																
償還金収入	8,000	7,110																
現年度収入	7,054	6,188																
過年度収入	946	922																
償還金回収コスト比率	4.29%	4.73%																

未達成の 要因と分析	<p>■ 償還金 (現年度収入) の状況 (単位: 百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>調定額 A</th> <th>収入額 B</th> <th>収入率 B/A</th> <th>収入件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画</td> <td>7,983</td> <td>7,054</td> <td>88.4%</td> <td>80,227件</td> </tr> <tr> <td>見込</td> <td>6,855</td> <td>6,188</td> <td>90.3%</td> <td>72,442件</td> </tr> <tr> <td>差</td> <td>△ 1,128</td> <td>△ 866</td> <td>1.9%</td> <td>△ 7,785件</td> </tr> </tbody> </table>		調定額 A	収入額 B	収入率 B/A	収入件数	計画	7,983	7,054	88.4%	80,227件	見込	6,855	6,188	90.3%	72,442件	差	△ 1,128	△ 866	1.9%	△ 7,785件
		調定額 A	収入額 B	収入率 B/A	収入件数																
計画	7,983	7,054	88.4%	80,227件																	
見込	6,855	6,188	90.3%	72,442件																	
差	△ 1,128	△ 866	1.9%	△ 7,785件																	
今後の 改善方策	<p>滞納対策については、初期滞納者（1年未満の滞納者）への督促を速やかに行うほか、返還者の就労や所得など個々の状況を踏まえ、返還猶予や分割納付を提案するなど、きめ細やかな納付相談を行う。また、長期滞納者（1年以上の滞納者）に対しては、個々の状況に応じて自宅又は勤務先への架電、本人及び連帯保証人への文書発送に加え、自宅への積極的な訪問などによる督促を行う。さらに弁護士名による支払督促など法的措置を活用し返還交渉に繋げ、粘り強く継続的に交渉していく。</p> <p>回収に係るコストについては、収入率を上げるためには様々な取組みが必要となり一定コストを要するが、引き続きより効果的・効率的な事業運営に努めていく。</p>																				

今後の 改善方策	<p>■ 奨学金の貸付状況 (単位: 件、百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">2014年度貸付 (H26)</th> <th colspan="2">2015年度貸付 (H27)</th> <th colspan="2">2016年度貸付 (H28)</th> <th colspan="2">2017年度貸付 (H29)</th> <th colspan="2">2018年度貸付 (H30)</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>貸付額</th> <th>件数</th> <th>貸付額</th> <th>件数</th> <th>貸付額</th> <th>件数</th> <th>貸付額</th> <th>件数</th> <th>貸付額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>36,082</td> <td>4,377</td> <td>35,973</td> <td>4,359</td> <td>36,034</td> <td>4,356</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>36,731</td> <td>4,652</td> <td>35,219</td> <td>4,457</td> <td>33,262</td> <td>4,270</td> <td>30,762</td> <td>4,006</td> <td>28,239</td> <td>3,763</td> </tr> <tr> <td>差</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>△ 2,820</td> <td>△ 107</td> <td>△ 5,211</td> <td>△ 353</td> <td>△ 7,795</td> <td>△ 593</td> </tr> </tbody> </table>		2014年度貸付 (H26)		2015年度貸付 (H27)		2016年度貸付 (H28)		2017年度貸付 (H29)		2018年度貸付 (H30)		件数	貸付額	件数	貸付額	件数	貸付額	件数	貸付額	件数	貸付額	計画	-	-	-	-	36,082	4,377	35,973	4,359	36,034	4,356	実績	36,731	4,652	35,219	4,457	33,262	4,270	30,762	4,006	28,239	3,763	差	-	-	-	-	△ 2,820	△ 107	△ 5,211	△ 353	△ 7,795	△ 593
			2014年度貸付 (H26)		2015年度貸付 (H27)		2016年度貸付 (H28)		2017年度貸付 (H29)		2018年度貸付 (H30)																																												
件数		貸付額	件数	貸付額	件数	貸付額	件数	貸付額	件数	貸付額																																													
計画	-	-	-	-	36,082	4,377	35,973	4,359	36,034	4,356																																													
実績	36,731	4,652	35,219	4,457	33,262	4,270	30,762	4,006	28,239	3,763																																													
差	-	-	-	-	△ 2,820	△ 107	△ 5,211	△ 353	△ 7,795	△ 593																																													